

関利雄さん

1923(大正12)年11月7日生まれ
当時の本籍地 埼玉県
陸軍 航空兵(操縦・戦闘機)
陸軍少年飛行兵(11期生)
飛行第77戦隊、第17錬成飛行隊
最終階級 軍曹
シンガポールなど



●1940(昭和15)年10月10日 陸軍少年飛行兵に志願し(第11期生)、東京陸軍航空学校入校

●1942(昭和17)年9月20日 航空記念日の行事として郷土訪問飛行を行う

7機で廻り、各生家と母校には通信筒と、少年飛行兵勧誘のピラ各機5万枚を投下した。

●1943(昭和18)年3月28日 飛行第77戦隊配属

満州での訓練、南方各地を経て、11月スマトラ島ゲルンバン飛行場へ

●1944(昭和19)年1月18日 初陣

カルカッタから中国昆明への英軍の燃料輸送を阻止するため、ビルマ北部、中国国境で燃料の輸送機を狙う。「辻斬り」と言っていた。

中隊長に「絶対離れるな」と言われて付いていった。高度が5-6kmだから南方でも寒い。身体はブルブルブル震える、歯がガチガチする。本当に怖い。中隊長が撃ったから私も撃ったが、撃ったら幾らか人間らしい心地になった。その後何度も戦闘はやったが、毎回怖い。離陸して敵機に射撃するまでが怖い。

●1944(昭和19)年2月中旬までにニューギニア・ホーランジアに展開することになったが、マラリアを発病、高熱でうなされ、後から来るように言われて戦隊主力はニューギニアに発った。

2月25日、本隊を追ってホーランジアに到着の前日、愛機の油圧系統が故障し翼がだらんと下がってしまう。大きな修理を出来るような整備兵はいないと言われる。同期のWと私のどちらが残るかジャンケンで決めることにしたが、5回やって5回とも負け、私が残ることになった。これが大きな分かれ道になった。

4月22日、ホーランジアに連合軍が上陸。戦隊はジャングルを200キロ歩いたが、約百名中生還したのは2名。

●1944(昭和19)年7月25日 飛行第77戦隊は解散、シンガポールで新編成の第17錬成飛行隊に移管される

●1944(昭和19)年11月1日 シンガポールにB29が単機で初の偵察

7000mまで上がったが敵機はそれより高くにいる。酸素も付けてないので無理だと思い降りる。それまでの酸素ボンベは「人1人分」ぐらい重さがあったので、新しいものに取り替え準備する。隼は1万m上がれるが、機体が古く実際には9000mぐらいでアップアップ。10日おき位にB29は来たが、連絡が来てから上がったも間に合わない。

●1945(昭和20)年1月11日 B29撃墜

B29が約20機来襲、6機が迎撃に上がる。少し早めに上がっていたので待っている事が出来た。500mぐらいまで我慢して撃ち始めた。

真っ正面から撃った。向こうは千mぐらいから撃ってきて、煙もパンパンパンパン、弾もカンカンカンカン当たるが高度を落としたら負けだと思ってそのまま進み敵機に煙を吐かせて離脱した。左翼には大きな穴があいていたが、前からの弾は見えない。降りると一発はエンジンを貫き計器盤に当たり操縦席に落下していた。

●1945(昭和20)年6月25日 B24撃墜

数日セレベス島へ。2機で迎撃しB24を撃墜。降りたら他の1機の機関砲は故障して弾が出なくなったと言われ、私の戦果となった。

●1945(昭和20)年7月 部隊に特攻命令「七生昭宇」

全員が神風の鉢巻と新しいふんどしや下着を貰い、誰が指名されても良いようにしたが、英軍はすぐ退去した。

●1945(昭和20)年8月15日 シンガポールに戻り玉音放送を聞く

B24がピラを撒きに来るが、それがいなくなると各飛行機は空に上がって海の方に行って銃撃したり宙返りをした。9月武装解除。

●1945(昭和20)年10月 レンバン島(無人島)へ

12月に英軍のレーションが来るまではあらゆるものを食べた。最初はむくみ、それから骸骨みたいになる。

●1946(昭和21)年5月20日 復員

(取材日:2007年4月30日)